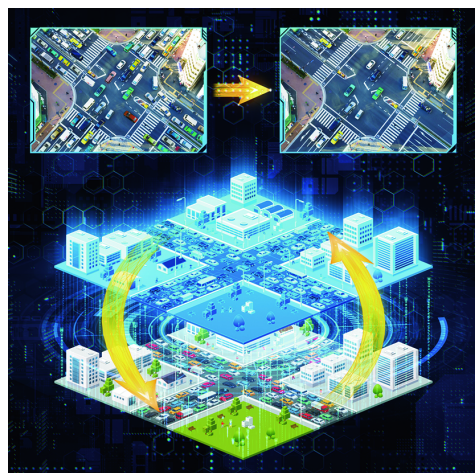




背景

NTTのIOWN構想における「デジタルツインコンピューティング（DTC）」を支える基盤として、多様なセンシングデータをリアルタイムに統合し、さまざまな未来予測を可能とする4Dデジタル基盤の実現をめざしています。

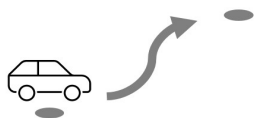
成果の概要

4Dデジタル基盤の交通領域への適用をめざし、ユースケース検討・実装を進めています。具体的には、デジタル技術を活用した新たな交通マネジメントの実現をめざします。

交通デジタルツイン

Multi-Agent Simulationで現実世界の車流を再現、交通マネジメント施策の結果を予測し、最適策を実施する

直近数日の移動傾向を反映した交通需要予測



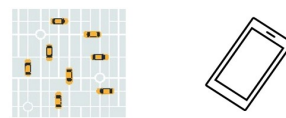
各種センサ情報から把握した、直近数日、および、類似日の人々の移動傾向を基に対象日の都市全体の移動需要を予測

リアルタイムデータによるシミュレーション補正



リアルタイム交通データに基づき、シミュレーション結果を補正（＝データ同化）

交通最適化施策実施



施策による交通の変化をシミュレーションし、最適策を求める個人ユーザごとに合った行動リコmend情報を配信

技術のポイント

- 位置情報および予定情報などからの移動需要推定
- 移動需要からの交通流再現
- 個々人の属性情報と移動傾向に基づく行動変容アプローチ

この研究がもたらす未来

個々人の多様な移動ニーズと都市の道路交通の整流化の両立を重視した新たな交通マネジメントの実現をめざします。

出展企業

日本電信電話株式会社、株式会社NTTデータグループ

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com